

育自していただけますか？

今年の夏、開設満10周年を迎えた、ある事業所を訪問したときのことである。そこで20代の男性介護職が着ていた紫色のポロシャツの背中を染め抜いた言葉に目が釘

これは事業所から支給された制服ではない。高校(福祉科)時代、学友と一緒に考えてつくったものだという。介護現場は、日々折々にさまざまなことが起こる。読者の皆さんは矢継ぎ早に起きる出来事一つひとつを、どのように受け

の2つは大きく違う。

落ち込むこともあれば、高揚することもある自分の気持ちに、理屈をつけて、身勝手な自己基準で捉えようとする人は少なくない。それだけに、ポロシャツの背中を染め抜いた彼の後ろ姿を見るや否や、人財育成を問い直すキーワードの一つとして「育自(自らを育てる)」という言葉が脳裏を過った。

乳幼児を育てるとい育兒ではなく、自らを育てるとい育自に

立とうと「育自」をしている若者の背中は仕事ではなく、「志事」をしているかのよう輝いていた。これを機に、挨拶代わりに聞いかけるようにしたい。

「育自していただけますか？」と。

実践から自分を育てること

「開設から数年たったころ、ある役員から『経営は失敗の科学である』という一言をいただきました。どんな知識があっても、理論を持っていても大切なことは、失敗の経験はどう学び、それを自分に取り入れるか、人間の限られた時間のなかから学びを学ぶ姿勢。それは、書であったり、師であったり、聞く耳を持つことが大切であると

いう。まだまだ未熟で発展途上ではあるものの、たかが10年、されど10年、地域の皆さまと共に歩んできたことに感謝を申し上げます」という謝辞で10周年記念誌は結ばれていた。このA4判213頁にもものぼる大作は、関係者に広く配布された。このことを伝えた会報には、理事長が過去に自身のノートに綴ったという言葉が添えられていた。

「実践から自分を育てること」

「彼らに対して何を知っているのか、彼らに対して又彼らの為に何をやったのかということが問われるのではなく、彼らと共にどういう生き方をしたかが問われる世界である」

「実践から学ぶことこそが介護従事者の介護の精神基盤を確立させるのであり、またそのような実践の態度によって介護従事者の品位が備わるのである」

介護の志事を育自ととらえて取り組む事業所の姿勢に感銘を覚えればかりでなく、人財育成の究極が育自の二文字から始まるのではないかと痛感させられた。素晴らしい出来事にめぐり合えたことに感謝である。


 転期に立つ経営の視座④
 育自(自らを育てる)

づけとなった。

みんな一生懸命生きている

これでいいのかと

問う日もあるけれど

そのたびに大きくなるう

少しずつ、今しかない

この時をこの一瞬を

この仲間たちと

はやかわ・ひろし
 経営コンサルタント。1991年に独立。介護事業に関する独自の調査に基づいたデータ分析を各誌・紙に発表。著書に『99の言葉の杖』(日本医療企画)、『早川浩士の常在学場』(筒井書房)、『介護人財創造塾』(筒井書房)、『介護保険改正に勝つ！経営』(年友企画)、『データで徹底分析 介護事業の最新動向と経営展望』(日本医療企画)など。

<http://www.hayakawa-planning.com>

ブログ: <http://ameblo.jp/hayakawa-planning/>

止めているだろうか。猛烈な勢いで次々と問題が襲ってくると感じるのか、それとも一つひとつを自分とつての成長の糧ととらえているのか。ネガティブに受け止めてしまうのか、ポジティブに考えることができるのか、感覚的なものと思われるかもしれないが、こ